

ZEPHYROS

ゼフュロス No.24

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ウーゴ・ダ・カルピ《ディオゲネス》
クストディア財団

キアロスクーロ・ルネサンスとバロックの多色木版画 —フリッツ・ルフト・コレクションの所蔵作品による—

会期: 2005年10月8日(土)～12月11日(日)

主催: 国立西洋美術館／クストディア財団／(財)西洋美術振興財団

「キアロスクーロ」とは、本来イタリア語で「明暗」を意味する言葉です。そこから美術の専門用語として、「明暗法」を指すようにもなりました。そしてもうひとつ、この言葉には木版画の技法としての意味もあります。それが、この展覧会でご覧いただくキアロスクーロ木版画です。

この版画技法はルネサンス美術たけなわの16世紀初め、まずドイツで発明されました。ハンス・ブルクマイヤーが木版画の彫り師と共同で、複数の版を使って同

キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画

系色のインクを重ね合わせて刷ったのです。出来上がった版画には微妙な明暗や立体感が表現され、あたかもインクと水彩で描いた素描そのもののように見えました。こうした素描は当時コレクターの間で大変人気があったので、版画による複製を可能にしたブルクマイアーによる革新は評判を呼び、同時代の芸術家によって模倣されることとなります。

この技法が真に開花したのは、むしろイタリアにおいてのことでした。(そのため「キアロスクーロ」というイタリア語で呼ばれることとなります)ラファエロら

の素描を版画化したウーゴ・ダ・カルピをはじめとする数々の版画家たちによって、キアロスクーロ木版画は洗練されて行きます。またこの技法はフランドルやオランダ、フランスにも伝播しました。高度な技法と時間を必要とするキアロスクーロ木版画はコレクターによって高く評価され、ほかの版画技法とは別格の扱いを受けていましたが、技法の難しさゆえに、17世紀半ば以降はあまり制作されなくなりました。18世紀には素描の複製手段として一時的に復活しましたが、やがて銅版画による多色技法にとって代えられることとなります。

今回の展覧会の開催にあたり、パリにあるクストディア財団から110点、アムステルダム国立美術館から2点の作品をお借りします。クストディア財団の作品の大部分は、フリッツ・ルフトという20世紀前半の有名なコレクターの所蔵品だったものです。「同じ多色木版画である浮世絵版画の国でキアロスクーロ木版画を展示することは、とても意義のあることでしょうから」ということで、今回特別に多くの作品をお借りすることができました。西洋においても(多色木版という)浮世絵版画と同じ技法が存在したこと、さらにその表現がまったく異なることを目に

することは、浮世絵版画を新たな眼差しで見つめなおすきっかけともなることでしょう。

(研究員 渡辺晋輔)



ドメニコ・ベッカフーミ《使徒》
クストディア財団



ヘンドリック・ホルツイウス《テティス》
クストディア財団

◆「キアロスクーロ展」観覧料

一般	850円 (600円)
大学生	450円 (250円)
高校生	250円 (100円)
中学生以下	無料

※ () 内は20名以上の団体割引料金

《ローマの景観》：ピラネージのまなざし

the national museum of western art, tokyo

会期： 2005年10月8日(土)～12月11日(日)

ヴェネツィア生まれのジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ(1720-1778)は1740年、20歳の時に初めてローマにやってきます。ローマのパラッツォ・ヴェネツィアに滞在し、版画家ジュ



ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ
《サンタ・マリア・ディ・ロレート聖堂と
サンティッシモ・ノーム・ディ・マリア聖堂》
1763年 エッチング、エングレーヴィング

ゼッペ・ヴァージの下で修行しているうちに、次第にローマの都市景観に魅せられてゆきます。その後しばらくナポリや故郷へ旅をした後、再びローマに戻り本格的な制作活動を開始します。そして二代にわたるローマ教皇の庇護の下、建築家、考古学者としての目を持ちながら精力的に《ローマの景観》、《ローマの古代遺跡》、《パエストゥムの古代遺跡の景観》等の連作を制作してゆきます。彼の眼は単なる古代趣味や古代へのあこがれといった感傷的なものではありません。建築家として建築物や遺跡の構造を正確に分析し、そこに見出される調和のとれた力学構造から生まれる歴史を超えた建築の美と生命の原則を解明し、そしてそれらが「景観」として成立するために必要な「時間」という触媒による無機素材の有機的結合に愛情と賛嘆のまなざしを向けています。彼の関心は、人間世界の風景ではなく、人工的構造物が生み出す自律的景観に向けられているのです。国立西洋美術館所蔵のピラネージの版画作品ははまだ全作品の保存修復処置が完了していないため、今回は《ローマの景観》《パエストゥムの古代遺跡の景観》を中心に40点ほどを展示いたします。

(主任研究官 高梨光正)

◆常設展観覧料

一般	420円	(210円)
大学生	130円	(70円)
高校生	70円	(40円)
中学生以下	無料	

※ () 内は20名以上の団体割引料金



ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ
《モッレ橋》
1762年 エッチング、
エングレーヴィング

目で、考える。こころで、話す。 「スクール・ギャラリートーク」を実施しています。

the national museum of western art, tokyo

じっくり作品を見て、自ら考え、言葉を紡ぐことを促すギャラリートーク。—これまで、当館では小・中・高校生の団体を対象にこうした対話型のギャラリートークを夏期のみ行



スクール・ギャラリートークの一場面

ってきましたが、2005年度からボランティアスタッフの導入により、実施時期を拡大して提供できるようになりました。1年間の研修を受けてきたボランティアスタッフは、依頼を受けた団体の年齢などを考慮し、その都度準備をして対応しています。

一人一人の思いを大切にするため、小グループに分かれギャラリートークは行われます。ボランティアスタッフといっしょに常設展示を見て回る子供達。「何か気づいたことある?」「どうしてそう思った?」そんな問いに思い思いの言葉を返してきます。作品を前にして子供達が自ずと発する言葉を受けとめ、鑑賞する楽しさを分かち合いながら、対話が進められていきます。子供達同士の会話も弾み、お互いの発言がそれぞれの考えを刺激しあっているようです。こうした体験は、子供達にいつもとは少し違った作品との出会いをもたらし、その関わりをより深めてくれることでしょう。

9月、10月のスクール・ギャラリートークはお休みで11月以降の予約を受け付けています。ご興味のある方は教育普及室までお問い合わせください。

(TEL:03-3828-5198 *問い合わせ時間:月曜～金曜 10:00～17:00)

※スクール・ギャラリートークとならんで、6才から10才の子供と同伴の大人を対象とした「ファミリープログラム」を実施しています。

9月～11月は当館が作成した観賞用補助ツール、「びじゅつーる」の貸し出しを行います。詳細は当館ホームページをご覧ください。(URL:<http://www.nmwa.go.jp/>)

(教育普及室 酒井敦子)



対話を通して作品をじっくり見る



9月から貸し出しする「びじゅつーる」

「キアロスクーロ展」に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆記念講演会

- ① 10月15日(土) 14:00～15:30 **10月1日申込締切**
保井亜弓(金沢美術工芸大学助教授)
「(仮)ドイツのキアロスクーロ木版画」
- ② 10月29日(土) 14:00～15:30 **10月15日申込締切**
幸福輝(国立西洋美術館学芸課長)
「オランダのキアロスクーロ木版画-ホルツィウスを中心に」
- ③ 11月12日(土) 14:00～15:30 **10月29日申込締切**
柄澤齊(からさわひとし)(版画家)
「キアロスクーロ木版画の技法を推理する」
- ④ 11月26日(土) 14:00～15:30 **11月12日申込締切**
渡辺晋輔(国立西洋美術館研究員)
「(仮)イタリアのキアロスクーロ木版画」

会場	国立西洋美術館講堂
定員	145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)
応募方法	往復はがきに、希望日(はがき1枚につき1講演のみ)、氏名(1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号をご記入の上、下記の宛先にお申し込みください。(締切日の消印有効)。 *応募者多数の場合は抽選になります。
宛先	〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館「キアロスクーロ展」講演会係

◆スライドトーク

展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日に解説を行います。

日時	10月14日(金)、10月28日(金)、11月11日(金)、11月25日(金)、12月2日(金) 毎回18:00～(約40分)
解説	渡辺晋輔(国立西洋美術館研究員)
会場	国立西洋美術館講堂
定員	先着145名(展覧会観覧券が必要です)。 *直接講堂にお越しください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2005年8月～2006年1月

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

■ 休館日
 ■ 土日・祝日

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8

AUGUST

ドレスデン国立美術館展—世界の鏡

(企画展示室) 6月28日(火)～9月19日(月・祝)



Fun with Collection 2005 (常設展示室)

いろいろメガネ Part 1—あなたの見かた教えてください

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

9

SEPTEMBER

ドレスデン国立美術館展—世界の鏡

(企画展示室) 最終日9月19日(月・祝)

Fun with Collection 2005 (常設展示室)

いろいろメガネ Part 1—あなたの見かた教えてください

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

10

OCTOBER

● キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画
 フリッツ・ルフト・コレクションの所蔵作品による
 (企画展示室) 10月8日(土)～12月11日(日)

● 《ローマの景観》:ピラネージのまなざし
 (新館2F版画素描室) 10月8日(土)～12月11日(日)

Fun with Collection 2005 (常設展示室)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

11

NOVEMBER

キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画

(企画展示室) 10月8日(土)～12月11日(日)

● 《ローマの景観》:ピラネージのまなざし (新館2F版画素描室) 10月8日(土)～12月11日(日)

Fun with Collection 2005 (常設展示室)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

12

DECEMBER

キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画

(企画展示室) 最終日12月11日(日)

● 《ローマの景観》:ピラネージのまなざし (新館2F版画素描室)
 最終日12月11日(日)

Fun with Collection 2005 (常設展示室)

年末年始
 休館
 12月28日
 (水)
 翌年
 1月1日
 (日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

1

JANUARY

● 1月2日(月)～
 1月9日(月)開館
 (常設展示)

1月10日(火)～1月30日(月)
 展示替え及び改修工事のため全館休館

Fun with Collection 2006

※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。
 ※閉館時間変更のお知らせ: 10月7日(金)は17時30分に閉館致します。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
 通常…午前9時30分～午後5時30分(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中=午前9時30分～午後5時)
 毎週金曜日…午前9時30分～午後8時(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第24号

編集・発行 国立西洋美術館/平成17年8月20日(年4回発行)
 協力(財)西洋美術振興財団
 印刷(株)アイネット